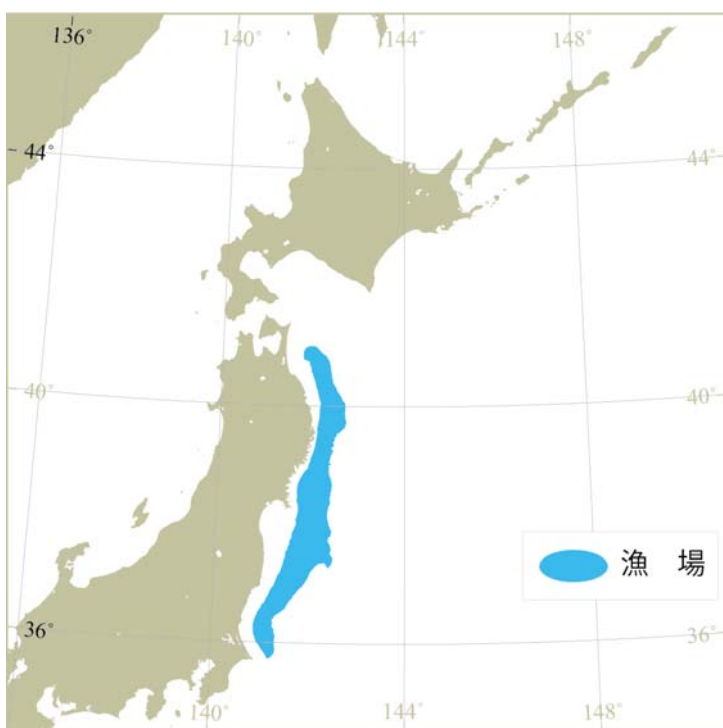




# サメガレイ太平洋北部 令和2年度資源評価結果

1

## 生物学的特性



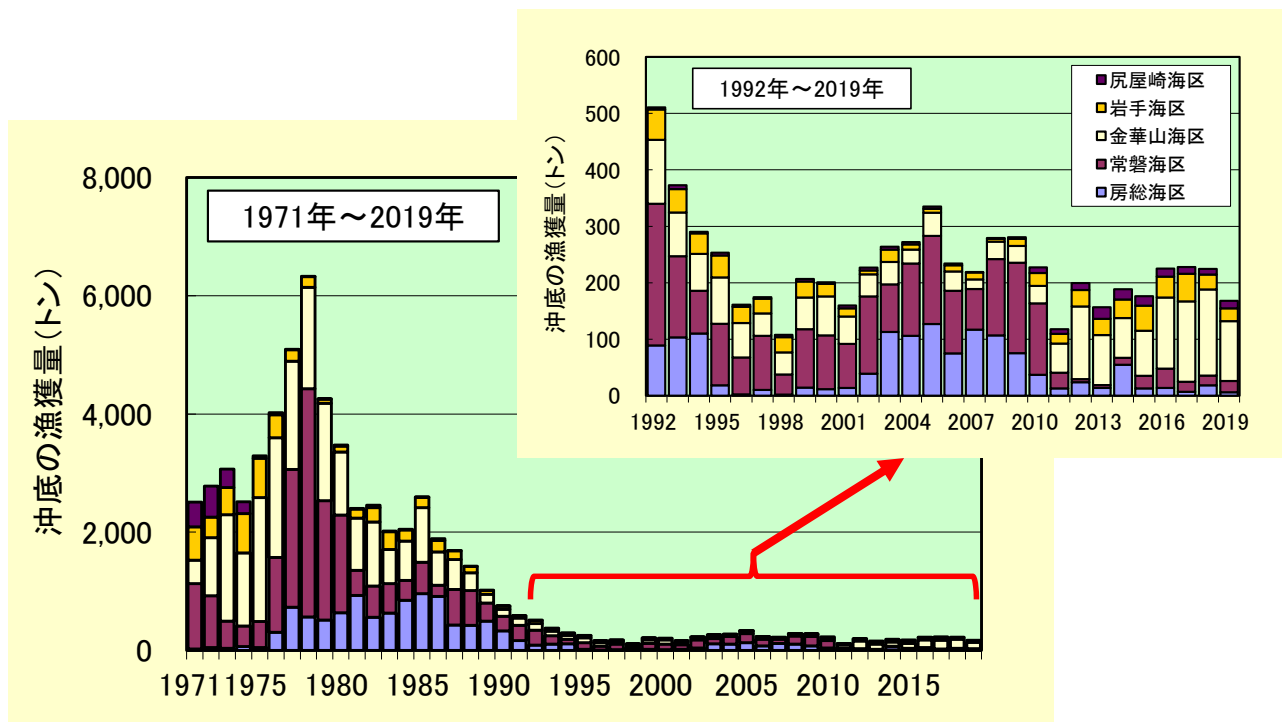
### 生物学的特性

- 寿命：雄15歳、雌22歳
- 成熟開始年齢：  
雄2歳（一部）、3歳（ほぼ100%）、  
雌3歳（一部）、4歳（ほぼ100%）
- 産卵期・産卵場：1～2月、  
水深600～900mの深海域
- 食性：クモヒトデ類
- 捕食者：不明

- 漁獲は、沖底の禁漁期（7～8月）を除くほぼ周年
- 主に沖底により漁獲される。

2

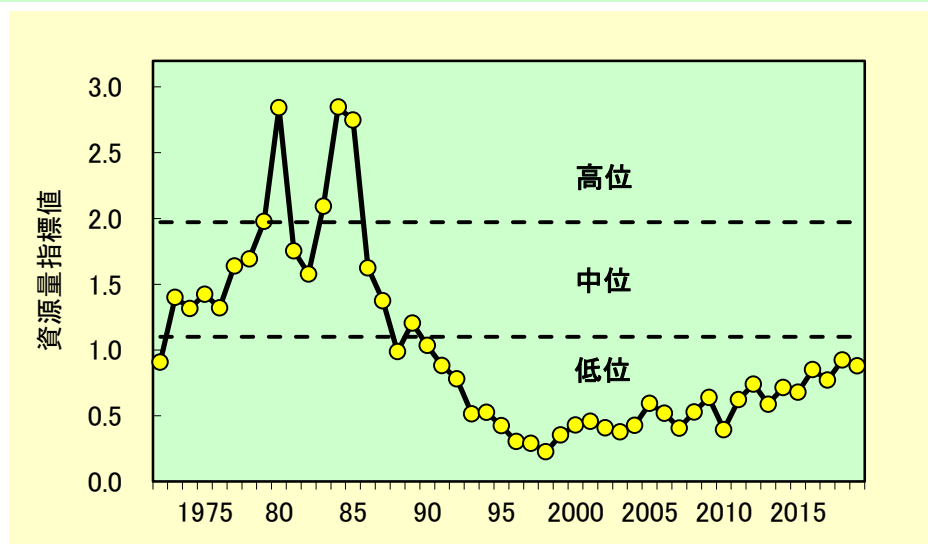
# 漁獲の動向



- 2019年の漁獲量:187トン (2018年:242トン)  
(沖底の漁獲量は168トン、2018年は224トン)

3

# 資源の動向①



※水準区分 低位/中位:資源量指標値の最高～最低値の下位3分の1に相当する1.10  
中位/高位:資源量指標値の最高～最低値の上位3分の1に相当する1.97

- 資源量指標値(標準化CPUE): 2019年は0.88
- 資源水準:「低位」
- 資源動向: 過去5年間の資源量指標値の推移から「増加」

4

## 資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は増加
- 2011年以降、資源量指標値がやや増加傾向を示すものの、小型魚の加入が少ない状況が続き、近年は大型魚中心の組成となっている

## 2021年ABC表

管理基準	Target/Limit	2021年 ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・1.06	Target	130	—	—
	Limit	170	—	—

- 0.7: 資源水準が低位水準である場合の推奨値
- Cave3-yr: 2017年～2019年の平均漁獲量
- 1.06: 資源量指標値の推移から算出



# キチジ太平洋北部 令和2年度資源評価結果

1

## 生物学的特性



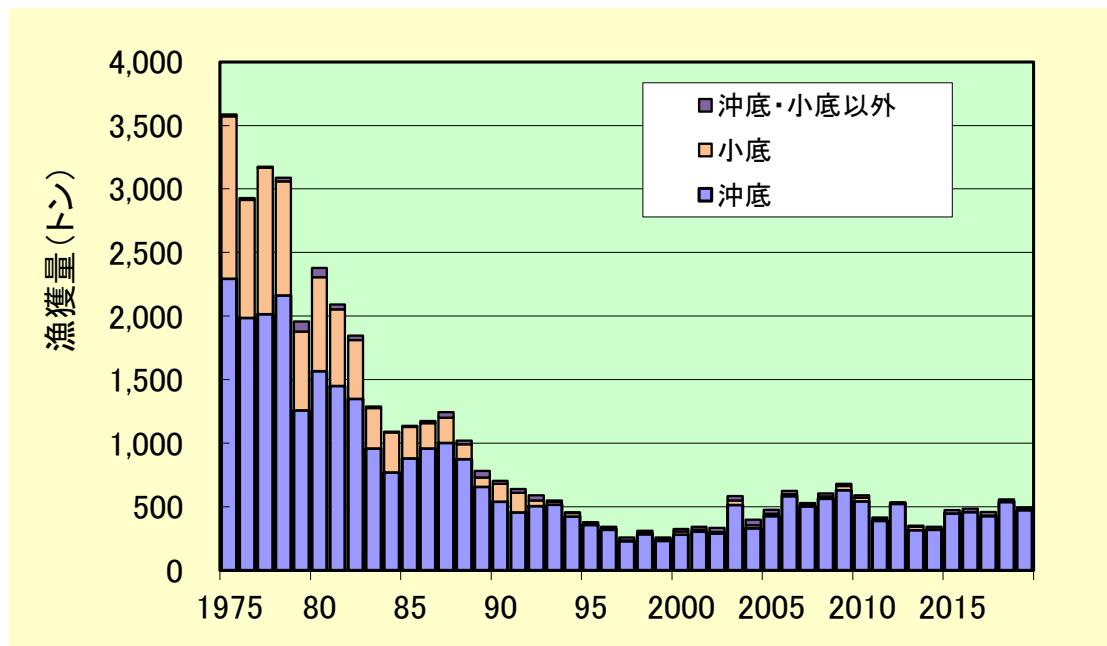
### 生物学的特性

- 寿命：20歳程度
- 成熟開始年齢：雄5歳(100%)、雌10歳(11%)、11歳(35%)、12歳(69%)、16歳(100%)
- 産卵期・産卵場：1～4月、青森県～茨城県の太平洋岸沖全域
- 食性：エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類
- 捕食者：マダラ、アブラガレイ

- 漁獲は、沖底の禁漁期(7～8月)を除くほぼ周年
- 沖底による漁獲が大部分を占める

2

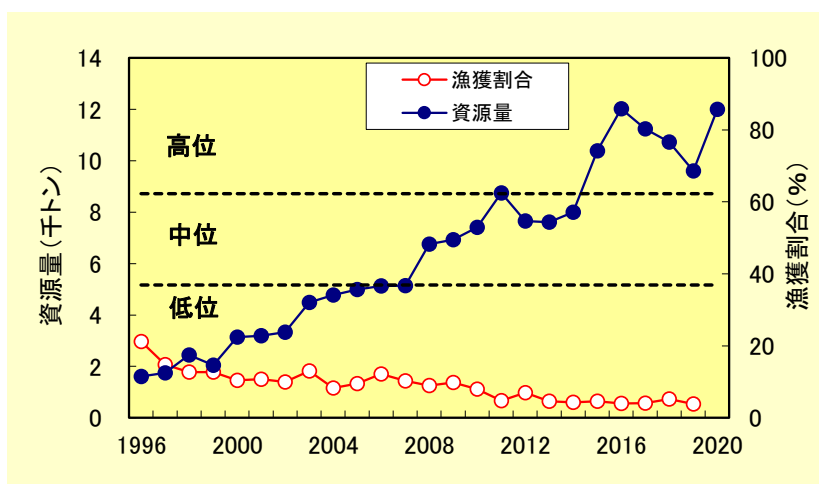
# 漁獲の動向



2019年の漁獲量：493トン（2018年：559トン）

3

# 資源の動向①

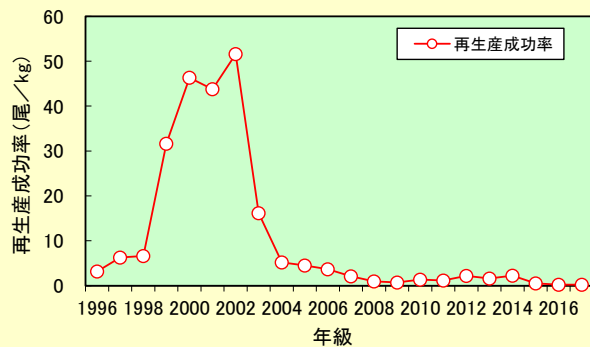
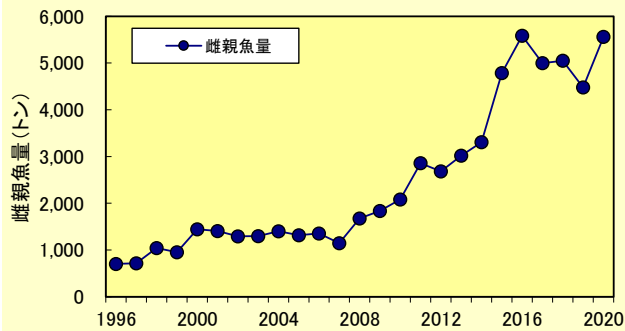


※水準区分 低位／中位：資源量の最高～最低値の下位3分の1に相当する5,168トン  
 中位／高位：資源量の最高～最低値の上位3分の1に相当する8,725トン

- 資源量(トロール調査により推定)：2020年は12,281トン
- 資源水準：「高位」
- 資源動向：過去5年間の資源量の推移から「横ばい」
- 漁獲割合(漁獲の強さを表す指標)：漁獲割合は減少傾向にあり、低い水準で推移

4

## 資源の動向②



- 雌親魚量は、2008年以降、増加傾向にあり、2016年以降も変動はあるが高い水準で推移
- 1999年～2002年級群の加入量が増加し、この豊度の高い年級群が成長して資源量が増加した
- 再生産成功率は、2004年級群以降、低い水準で推移し、加入量も少ない年が続いている

5

## 資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は横ばい
- 2020年の資源量は12,281トン、雌親魚量は5,560トン
- 2004年級群以降の再生産成功率は低い状態が継続

## 2021年ABC表

管理基準	Target/Limit	2021年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0F40%SPR	Target	450	4.3	0.047 (-2%)
	Limit	560	5.3	0.058 (+22%)

- 1.0: 資源水準が高位水準である場合の推奨値
- F40%SPR: 適切な親魚量を確保する漁獲シナリオ

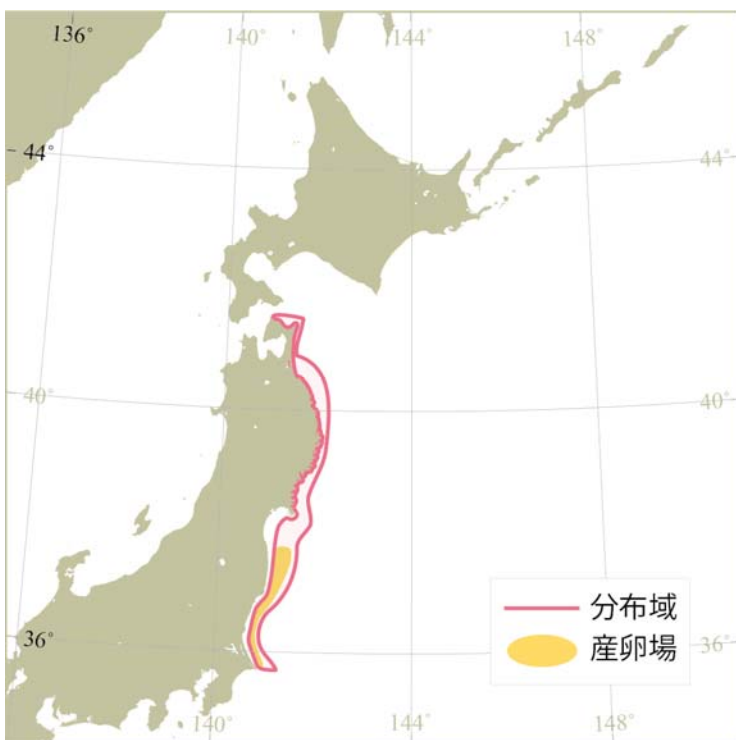
6



# ヤナギムシガレイ太平洋北部 令和2年度資源評価結果

1

## 生物学的特性



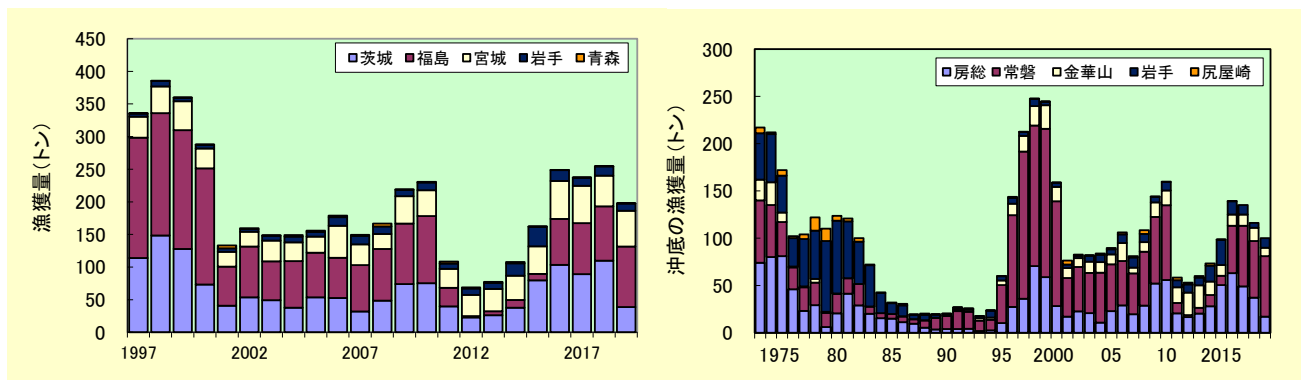
### 生物学的特性

- 寿命：雄6歳、雌20歳（ほとんどは10歳以下）
- 成熟開始年齢：  
雄：2歳（ほぼ100%）、  
雌：2歳（一部）、3歳（100%）
- 産卵期・産卵場：  
福島沿岸では1～6月、盛期は1～3月、  
水深100m前後の沿岸各地
- 食性：多毛類と甲殻類
- 捕食者：不明

- 漁獲は、沖底・小底の禁漁期（7～8月）を除くほぼ周年
- 主に沖底・小底により漁獲される。

2

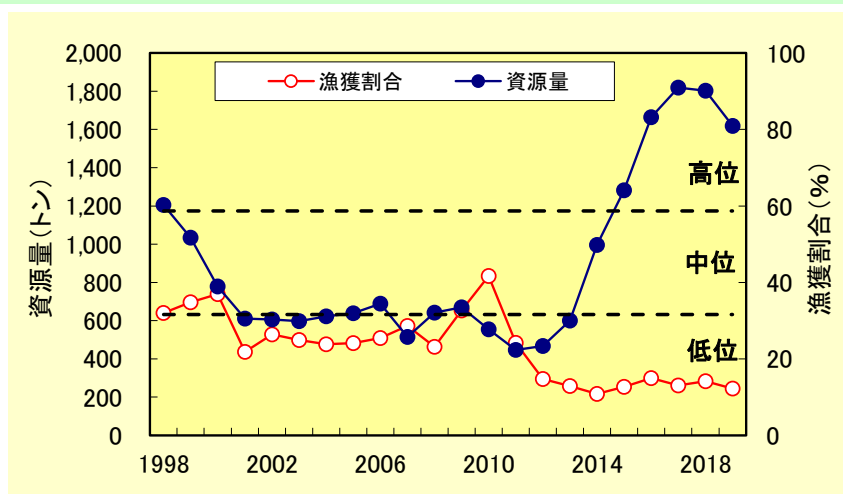
# 漁獲の動向



- 2019年の漁獲量：198トン（2018年：254トン）
- 1997年～2000年には288トン～386トン
- 東日本大震災（震災）により大きく減少したが、2015年には162トン、2018年には254トン、2019年には198トンに回復
- 沖底の漁獲量も同様の傾向で、2016年～2019年には100トン～139トンで推移

3

# 資源の動向①

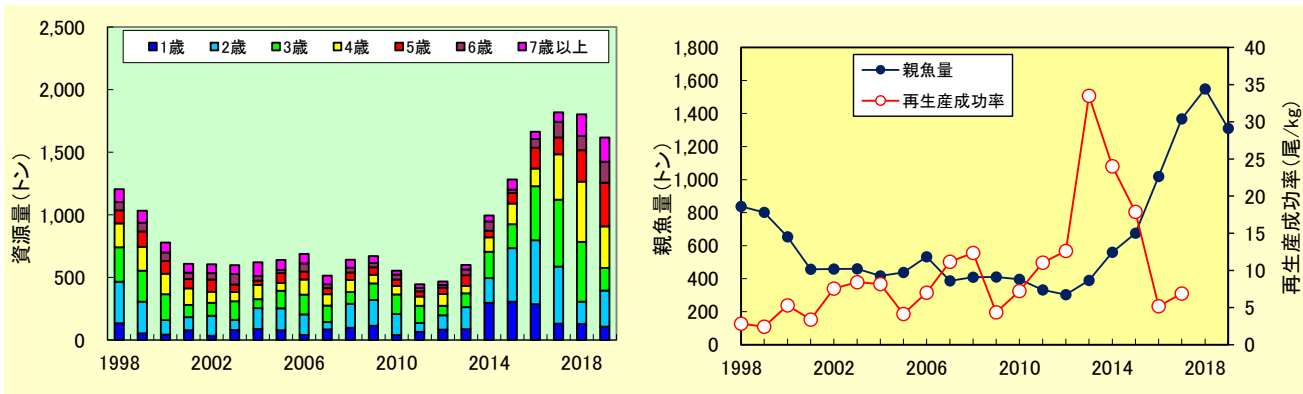


※水準区分 低位／中位：平均値より30%少ない資源量632トン  
 中位／高位：平均値より30%多い資源量1,173トン

- 資源量（コホート解析により推定）：2019年は1,619トン
- 資源水準：「高位」
- 資源動向：過去5年間の資源量の推移から「横ばい」
- 漁獲割合（漁獲の強さを表す指標）：漁獲割合は震災の影響で減少し、2019年も12%と以前より低い水準である。

4

## 資源の動向②



- 現在の資源は幅広い年齢の個体から構成されており、近年の加入も比較的安定している
- 親魚量：資源量と同じく、親魚量も増加している。  
2019年は1,310トン
- 再生産成功率：2013～2015年は高いが、2016年、2017年は低い

5

## 資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は横ばい
- 2019年には4～6歳魚が多い資源構造となっている
- 2019年資源量は1,619トン、親魚量は1,310トン

## 2021年ABC表

管理基準	Target/Limit	2021年 ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの 増減%)
Fcurrent	Target	300	16	0.20 (-20%)
	Limit	364	19	0.25 (±0%)

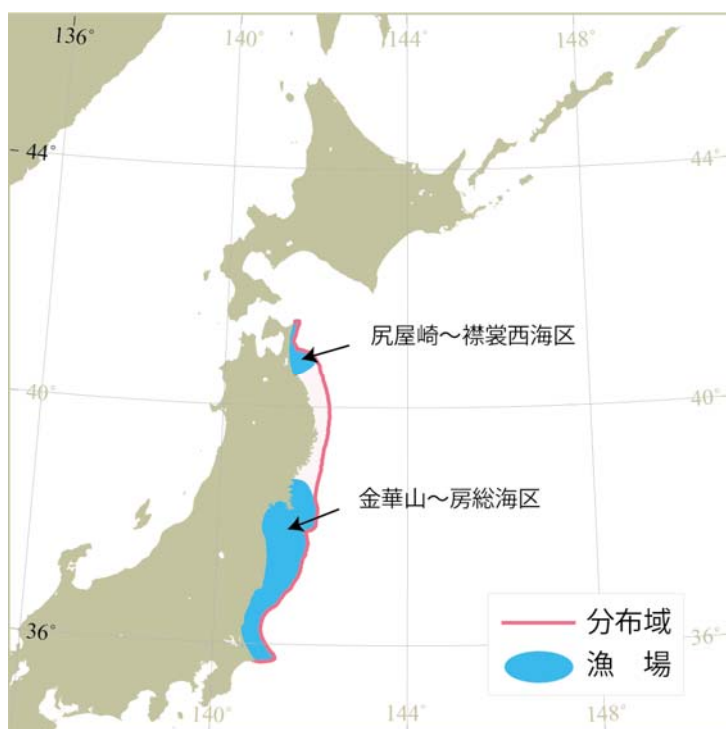
- Fcurrentは現状の漁獲圧を維持する漁獲シナリオであり、2014年～2018年のF値の平均



# キアンコウ太平洋北部 令和2年度資源評価結果

1

## 生物学的特性



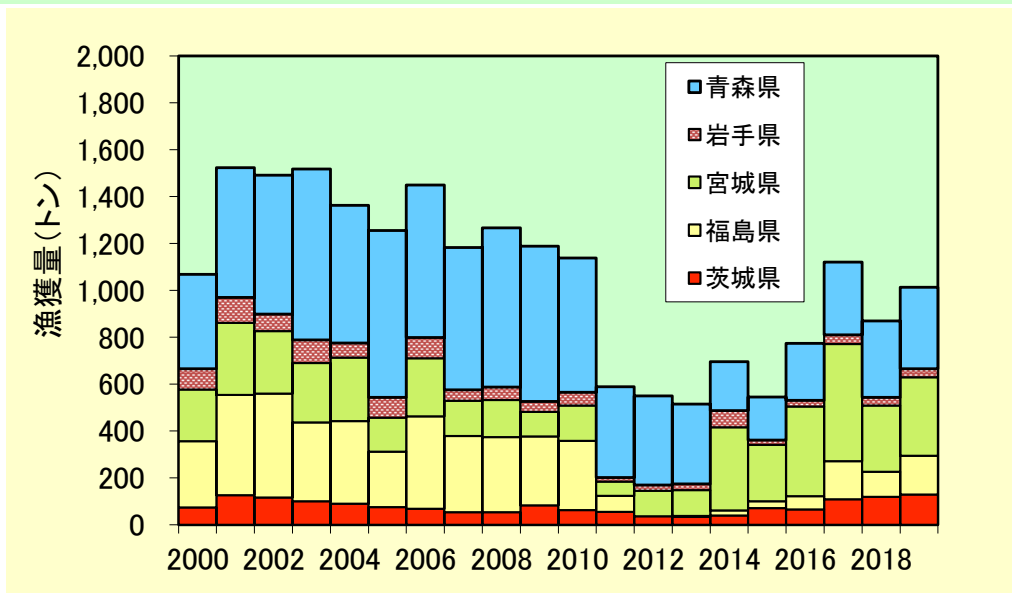
### 生物学的特性

- 寿命：不明
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：5～6月（津軽海峡東部沿岸）、5～7月（仙台湾周辺）、4月～遅くとも8月（福島県中部海域）
- 食性：小型個体は小型魚類や甲殻類、成長につれカレイ科魚類、タラ科魚類、イカナゴ、カタクチイワシ、スルメイカ、トラザメなど
- 捕食者：ミズウオ

- ・漁獲はほぼ周年
- ・2019年は沖底で51%、小底で17%、その他で30%を漁獲。

2

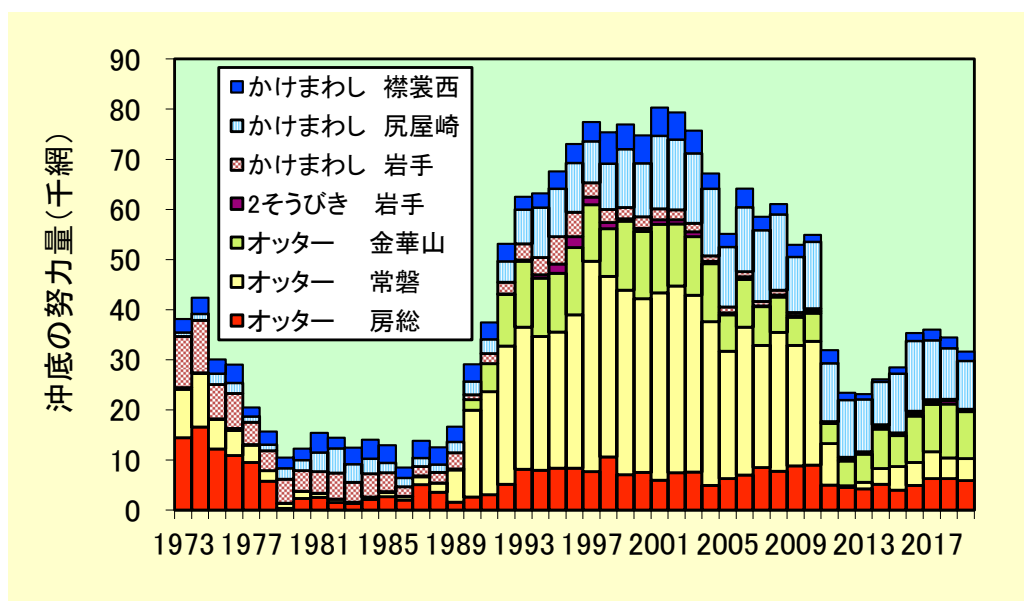
## 漁獲の動向①



- 2019年の漁獲量：1,013トン(2018年：870トン)
- 東日本大震災(震災)により大きく減少したが、2014年から回復

3

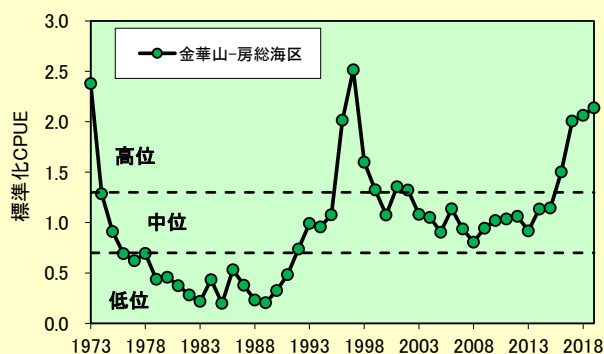
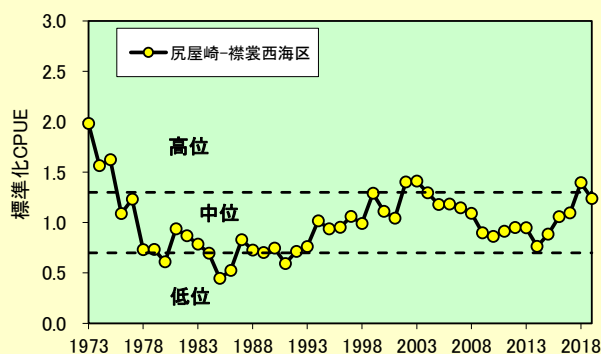
## 漁獲の動向②



- 漁獲努力量：2001年以降、減少傾向となり、2011～2012年に震災の影響で大きく減少。
- 2013年からは増加に転じているが、2019年はやや減少して3.16千網。

4

# 資源の動向①



※水準区分 低位/中位:資源量指標値0.7、中位/高位:資源量指標値1.3

- 尻屋崎～襟裳西海区と金華山～房総海区にわけて資源状態を判断
- 資源量指標値(標準化CPUE): 2019年は、尻屋崎～襟裳西海区で1.236、金華山～房総海区で2.138
- 資源水準: 尻屋崎～襟裳西海区で「中位」、金華山～房総海区で「高位」、全体では「高位」と判断
- 資源動向: 過去5年間の資源量の推移から、両海域とも「増加」、全体でも「増加」

5

## 資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は増加
- 尻屋崎～襟裳西海区(青森県～岩手県)では資源水準は中位、動向は増加
- 金華山～房総海区(宮城県～茨城県)では資源水準は高位、動向は増加

## 2021年ABC表

管理基準	Target/Limit	2021年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.9・青森県～岩手県Ct・1.057	Target	810	—	—
1.0・宮城県～茨城県Ct・1.032	Limit	1,010	—	—

- 1.0: 資源水準が高位水準である場合の推奨値
- 0.9: 資源水準が中位水準である場合の推奨値
- 青森県～岩手県Ct: 2019年の青森県、岩手県の合計漁獲量
- 宮城県～茨城県Ct: 2019年の宮城県、福島県、茨城県の合計漁獲量
- 1.057、1.032: 資源量指標値の推移から算出

6



# マダラ北海道太平洋 令和2年度資源評価結果

1

## 生物学的特性



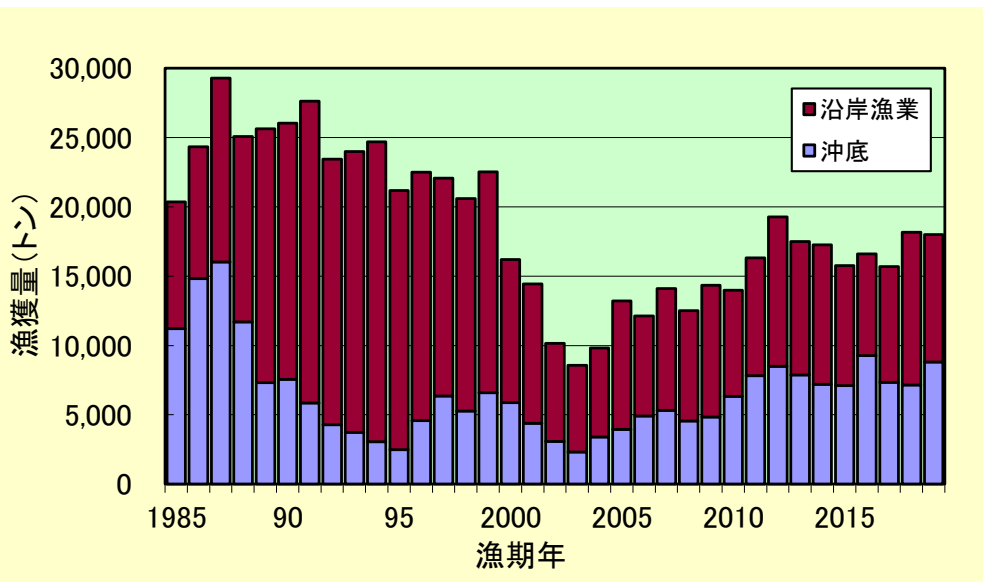
### 生物学的特性

- 寿命: 6歳以上
- 成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳
- 産卵期・産卵場:  
12月下旬～翌年3月、  
分布域全体に散在
- 食性:  
漂泳生活をしている幼稚魚期  
は主にカイアシ類、  
底生生活に入ってから  
は主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類
- 捕食者: 海獣類

・ほぼ周年漁獲されるが、冬季～春季に漁獲量が多い

2

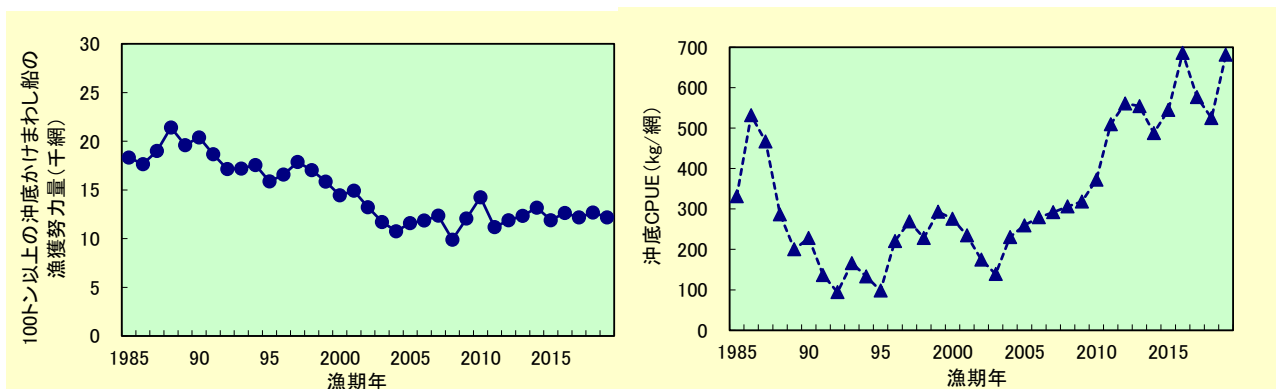
## 漁獲の動向①



- 2019年漁期(4月～翌年3月)の漁獲量:1.80万トン  
(2018年漁期:1.81万トン)
- 沖合底びき網漁業(沖底)の割合は4割程度、沖底漁獲量の9割強は100トン以上のかけまわし船

3

## 漁獲の動向②



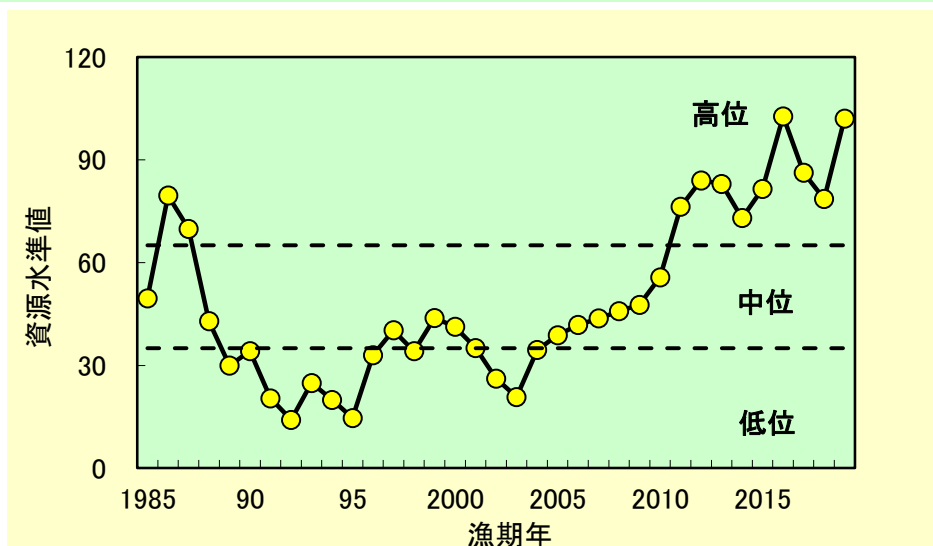
- 100トン以上の沖底かけまわし船の漁獲努力量※は1980年代後半以降減少し、2002年漁期以降ほぼ横ばい
- 100トン以上の沖底かけまわし船によるマダラのCPUE※(沖底CPUE)は2011年漁期以降、高い値で推移

※漁獲努力量:マダラの漁獲があった操業(有漁操業)の曳網回数

※CPUE:有漁操業の1網当たり漁獲量

4

## 資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源量指標値35、中位／高位：資源量指標値65  
 (1985年漁期以降の沖底CPUEの平均値を50とし、各年の沖底CPUEの値を算出)

- 資源水準： 2019年漁期の資源水準値は102であり、「高位」
- 資源動向： 直近5年間の資源水準値の推移から「増加」

5

## 資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は増加
- 沖底CPUEに基づいて資源状態を判断した

## 2021年漁期ABC表

管理基準	Target/Limit	2021年漁期ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0・Cave3-yr・1.09	Target	151	—	—
	Limit	188	—	—

- 1.0：資源水準が高位水準である場合の標準値
- Cave3-yr：2017～2019年漁期の平均漁獲量
- 1.09：資源量指標値の推移から算出

6